



町立下川病院
薬剤師 池田邦寿



インフルエンザワクチンの
予防接種を受けましょう

町民の皆様こんにちは、町立下川病院で薬剤師をしております池田邦寿と申します。広報しもかわへの寄稿は昨年12月号に続き2度目になります。

今年もインフルエンザ流行シーズンを目前に控え、下川町でもワクチン接種が始まる季節となりました。

昨シーズンはワクチンに使用するA/H3株の選定に時間を要し全国各地でワクチンの供給不足・遅延が叫ばれておりました。

町立下川病院では期間中希望される患者様に接種をして頂けたのではないかと

ズンもありました。これは対象集団の罹患歴やワクチン接種歴による免疫保有状況、時間や場所による流行規模の違いなどがワクチンの有効性に大きく影響するためと考えられています。

■高齢者インフルエンザの危険性

インフルエンザワクチンはB類定期接種に位置づけられ65歳以上の方等は助成も受けられます。ご高齢の方はどうしても肺や全身の感染防御能が低下し、下気道感染を罹患しやすく、インフルエンザ自体あるいは二次性細菌性肺炎を併発するリスクも高まります。また認知機能の低下により、頭が痛い、関節が痛む、だるい、食欲がない、痰が絡むなどの症状を覚しづらく、認知症の方などは周囲に症状を上手に伝える事も難しく重症化の恐れもあります。飲水・摂食量の低下により脱水や電解質異常などが惹起され意識障害・転

思いですが、全国のクリニックではワクチンの供給が間に合わず予防接種をとりやめたところも多かったと聞きます。

インフルエンザワクチンは流行シーズン前の短い期間に年少児から成人、高齢者まで多数の皆様が同一に接種をします。したがって安定供給される事は不可欠な条件とも言えます。

■ワクチンができるまで

インフルエンザワクチンの予防効果は、疫学研究の結果、その有用性が示されています。インフルエンザウイルスは頻りに遺伝子変異を起こすため、ワクチンに用いる株は毎年見直す必

要があります。

従来のワクチン株の選定には、世界保健機関(WHO)の推奨、国内の流行や分離ウイルスの性状、国民の抗体保有状況などを考慮したうえで国立感染研究所が候補株を選定し、これに基づいて厚生労働省が決定し、ワクチンメーカーへ通知が行われていました。しかし昨年度(2017/18) A/H3亜型のワクチン株として選定された埼玉株の増殖性が想定よりも低い事がメーカーの製造過程で判明し、ワクチンの大幅な製造供給料減少が見込まれたため、急遽A/H3亜型のワクチンを一昨年(2016/17)と同様の香港株

倒や心疾患・糖尿病など基礎疾患の増悪へつながる危険性もあります。是非ともこれからの季節は、うがい、手洗い、予防接種などを心がけて頂きたいとおもいます。

それでも万が一インフルエンザに罹ってしまったら、現在5種類の抗インフルエンザウイルス薬が治療に使用されています。*(以下一般的な大人の方の用法用量です。)

■抗インフルエンザウイルス薬

* (商品名…一般名です。)

- タミフル…オセルタミビル(経口薬) 1回1カプセル 1日2回 5日間服用
- 小児用ドライシロップもありです。途中症状が良くなっても体内のウイルスを排除するため、きちんと5日間服用しましょう。2018年9月より後発品も発売になりました。
- また(副作用の可能性が

指摘されていた異常行動はインフルエンザウイルス感染症そのものによることが示唆されたため、10歳代にも使用可能となりました。)

- リレンザ…ザナミビル(吸入薬) 1回10mg(5mgのプリスターを2個吸入) 1日2回 5日間

途中症状が良くなっても体内のウイルスを排除するため、きちんと5日間服用しましょう。

- ラピアクタ…ペラミビル(注射薬) 300mgを1回投与 15分以上かけ点滴投与 吸入・内服が難しい方にも使用できます。

- イナビル…ラニナビル(吸入薬) 1回40mg(20mgのキット2個使用) 1キット2回吸入ですので一度に4回吸入することになります。(1回のみで治療します。)

に選定し直すという経過をたどり、その結果ワクチンの供給が例年よりも遅れる事となりました。

今年度(2018/19)からはワクチン株の選定プロセスが見直され、厚生労働省の厚生科学審議会のもとに「季節性インフルエンザワクチンの製造株について検討する小委員会」が設置され国立感染研究所から提案されたワクチン候補株について流行株との抗原相同性(抗原性の一致率)予想製造量の両側面から意見が集約され決定されました。

ワクチンに含まれるウイルス株は、当該シーズンの流行株との抗原相同性について一貫度が高い方がより有効性が期待できるとウイルス学的には考えられています。但しこれまでの経験ではワクチン株と流行株の相当性が高くて有効率が低かったり、一貫度が低くても有効率が高かったシ

- ゾフルーザ…バロキサビル マルボキシール(経口薬) 40mg1回服用(20mg錠2錠、80kg以上の方は4錠服用) 1回のみで治療します。2018年3月発売の新しい薬で、従来と異なる作用機序でもあります。今後、顆粒も発売が予定されています。

服用方法以外にも薬価や腎障害時の減量の有無、使用実績等それぞれの特徴があります。患者様の背景・症状をもとに医師の先生が薬を選んで頂けると思いますが、さすが町民の皆様がインフルエンザに罹患せず、抗インフルエンザウイルス薬を使用せずに健康にお過ごし頂ける事を心より願っております。

■お問い合わせ

町立下川病院
☎・☆412039